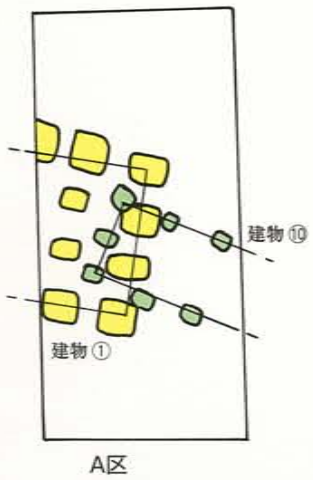
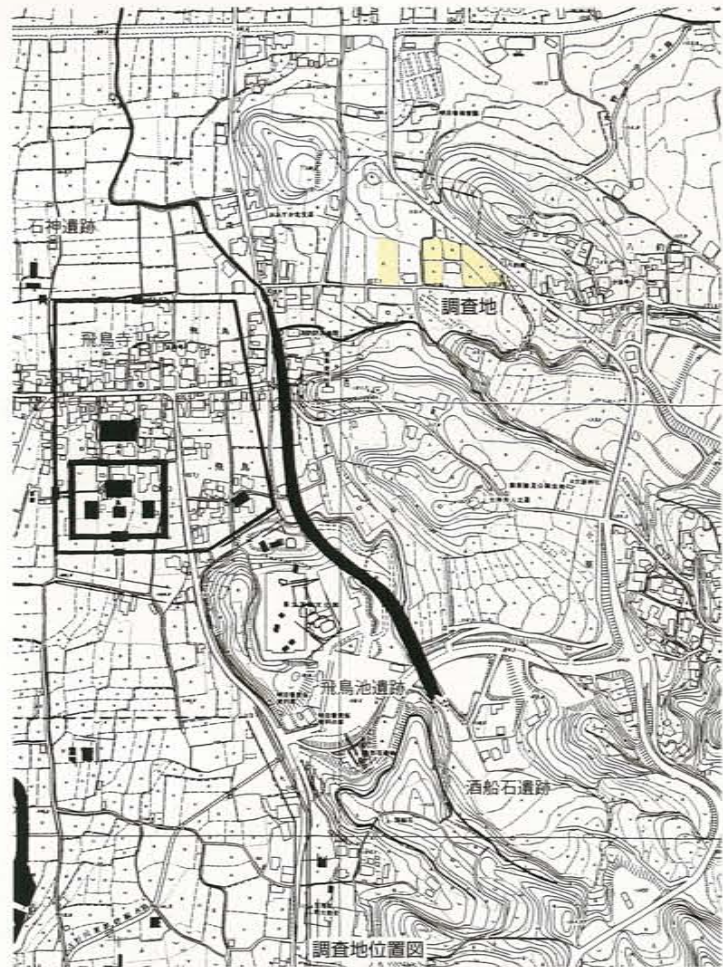


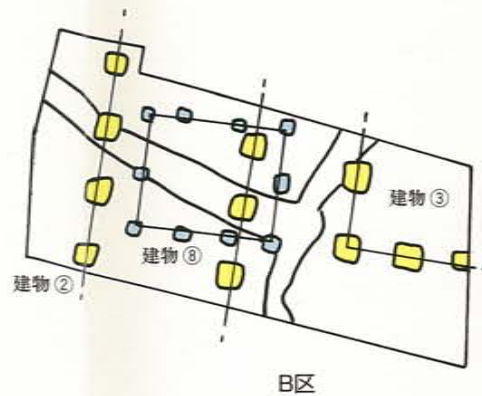
# 竹田遺跡



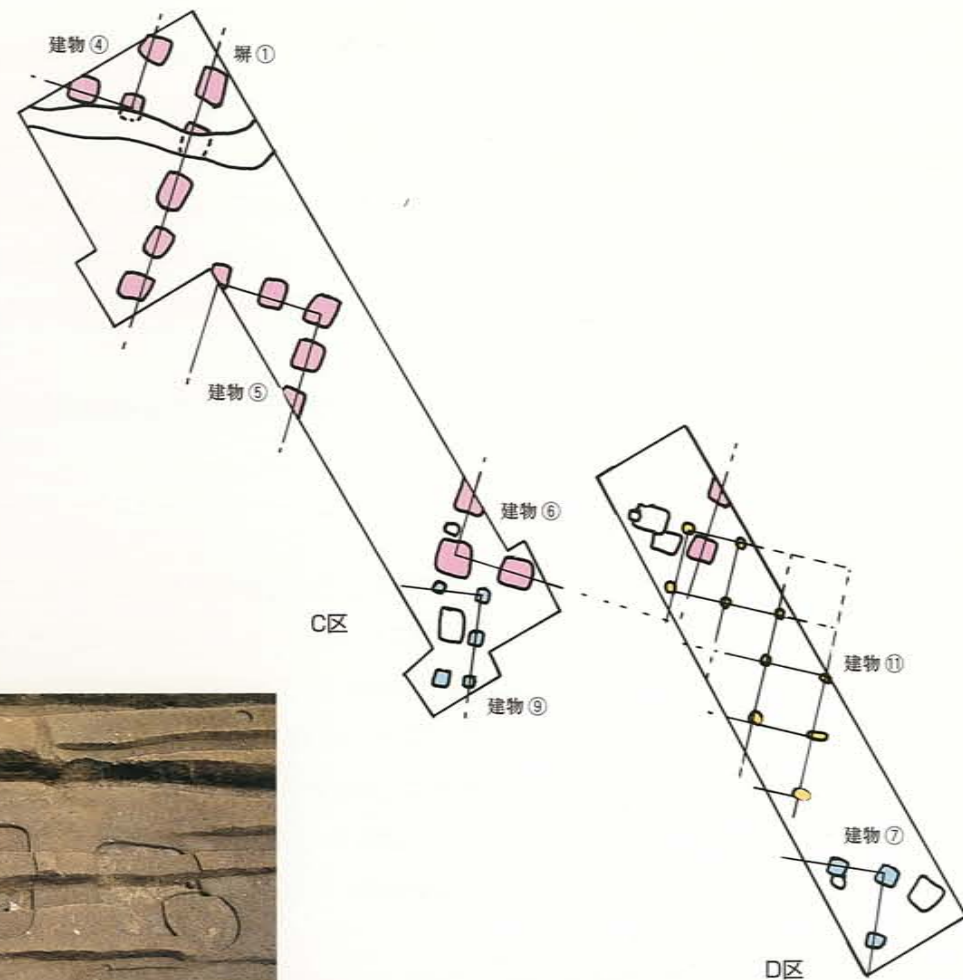
2006年11月  
明日香村教育委員会



A区



B区



竹田遺跡遺構略測図



A区全景 (南から)



B区全景 (東から)



▲建物①・⑩ 検出状況 (西から)



塀①柱穴断割状況 (北東から)▶

# たけ だ い せき 竹 田 遺 跡

## 1.はじめに

竹田遺跡は飛鳥寺の北東隅のさらに東方、中金堂からは約200mの距離にあります。調査地は八釣の集落より伸びる丘陵の南側にあたります。飛鳥寺の北面大垣をそのまま東へと進む道路が「竹田道」と呼ばれていたことは、「竹田道ヨリ北」という小字名が周辺に遺存することから窺い知ることができます。

調査地周辺におけるこれまでの調査では、南西の東山カワバリ遺跡で7世紀中頃以前の掘立柱建物がみつかり、飛鳥寺に使用されていた鴟尾が出土しました。また、平成13年に実施した飛鳥竹田遺跡の調査では溝や掘立柱塀が見つかりました。これらの成果から、竹田遺跡には飛鳥時代の邸宅や寺院に関わる施設が並んでいた可能性が指摘されていました。一方、文献によれば、『万葉集』第三巻 262首に「矢釣山」を詠った歌があり、天武天皇の皇子の一人である新田部皇子の邸宅が八釣集落近辺にあったと推定でき、記録の上からも、当遺跡の性格を垣間見ることができます。

これらの成果を受けて明日香村教育委員会では竹田遺跡の範囲と性格を解明するために約900㎡を調査しました。

## 2.主な遺構と出土遺物

調査の結果、飛鳥時代の後半を中心とした建物群がみつかりました。これらの建物群はいくつかのグループに分けることができます。建物①・②・③は一辺1mちかい柱掘形をもつ建物です。建物④・⑤・⑥と塀①は、先の建物よりわずかに東に方位が振れますが、やはり大型掘形をもつ建物群です。建物⑦・⑧・⑨、建物⑩は柱掘形が50cm程度の建物で、先の建物群よりも新しいと考えられます。また平安時代には建物⑪が建てられています。

これらのうち建物①・②・③と建物④・⑤・⑥・塀①はいずれも大型の柱穴を持ちますが、微妙に方位が異なっており、これが時期による違いか、敷地などによる違いかは明らかではありません。

主な出土遺物には石器・土師器・須恵器・製塩土器・黒色土器・墨書土器・瓦器・瓦・埴・鞆羽口・鉄滓などがあります。

## 3.まとめ

今回の調査では、飛鳥時代後半を中心とした建物群の一部がみつかりました。柱穴は一辺1m近い規模をもつものもあり、飛鳥地域でも大型のものです。残念ながら建物配置までは明らかにできませんでしたが、皇族や高位高官などの邸宅の可能性が考えられます。調査地は八釣の集落にほど近いことなどから、新田部皇子との関連性も注目され、今後の周辺での発掘調査が期待されるところです。いずれにしても、この地域に飛鳥時代の邸宅があった可能性が高まったことは重要です。